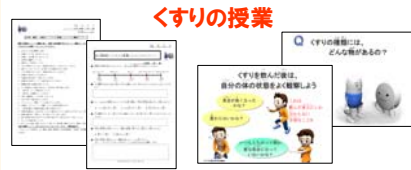


健康や医薬品に関する知識の実態と「くすりの授業」の効果

くすりの適正使用協議会

永田浩子、小林英夫、玉田隆司、大道寺香澄、小田原昭男、河野 有、稲田章一、松田偉太郎、米澤晴子、安井 舞

セルフメディケーションの重要性が増すなかで新学習指導要領が公示され、平成24年度からは中学校において、医薬品に関する教育が義務化されることになった。また、改正薬事法がこの6月1日から施行され、益々自らの健康や医薬品の適正使用に関する知識・判断力が求められ、それは児童・生徒であっても例外ではない。これらを踏まえて、「くすりの授業」の実施前後に児童や生徒の健康や医薬品に対する意識調査を行い、「くすりの授業」の有用性について考察した。



アンケート調査方法

くすりの適正使用協議会では「くすりの授業」実施者へ教材を貸出しており、これに併せて児童・生徒への授業前(事前)・授業後(事後)アンケート調査を依頼した。
対象:「くすりの授業」を受けた児童や生徒(小中高)
収集期間:2008年4月1日～2009年3月31日
収集件数:49件中20件
(事前:14件/510名/回収率28.6%、事後:20件/985名/回収率40.8%)

アンケート調査票の内容

事前アンケートでは生活習慣や医薬品使用の実態について、事後アンケートでは授業の効果について調査を行った。以下は設問例である。

- 事前アンケート(複数選択式)
 - ・医薬品をお茶やコーラで飲んだことがある。
- 事後アンケート(選択式)
 - ・もし、あなたが病気になって医薬品を使用する場合、今回の講義は参考になるとお考えですか？

「くすりの授業」のバックグラウンド

アンケート調査を行った20件の授業は、半数が10～40人、3割が40～100人単位で行われ、学習時間は45分以上90分未満が7割であった。学習の企画者は養護教諭が多く、実際の授業は学校薬剤師や養護教諭が単独で行うケースが最も多かったが、両者、又はどちらかと担任の連携で行われることも少なくなかった。授業の内容では、最も教育者が重点的に伝えたのは「用法・用量」や「コップ1杯の水で服用」などの正しい使い方、続いて健康と医薬品の意味、種類と形、仕組みや工夫、効き方で、副作用は副次的な扱いだった。また、授業実施者の2割が既に次の実施が決まっており、また7割が今後も継続したいと考えていた。

結果

《事前アンケート結果》

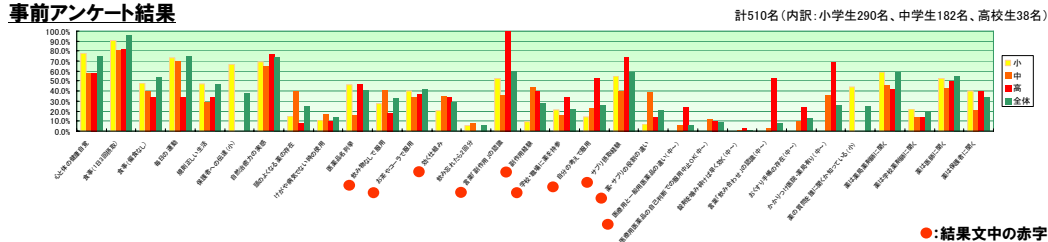
児童・生徒の健康や医薬品に対する意識の実態が以下のように判明した。

- 1.小学生で2割、高校生では3割強が薬を学校に持参しており、医薬品が身近なものである、あるいは必要な環境にあると考えられる。
- 2.自分の考えで医薬品を飲む機会も年齢に応じて増えることが伺われた。
- 3.一方で7割が医薬品の効く仕組みを知らない、4割が飲み物無しやお茶やコーラ等で医薬品を飲むなど、正しい知識を持たずに医薬品を使っている実態がみられた。
- 4.「副作用」という言葉は小学生でも5割以上が知っており、さらに中高では4割が「経験した」との認識があった。
- 5.改正薬事法により一般用医薬品が広告・宣伝されているが、一般用医薬品と医療用医薬品の違いの認識は中学校では1割以下、高校で2割程度だった。
- 6.サプリメントの服用経験は6割近くになるが、医薬品との違いは認識されていない実態があった。

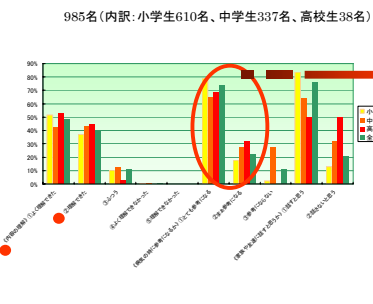
《事後アンケート結果》

当アンケートでは各授業で扱われた内容については詳細に特定できないものの、授業はよく理解されており、その知識は医薬品を使用する場合に参考になるとの回答が9割を超えている。また参考にされた箇所はコップ1杯の水で飲むなどの基本的な使い方が多かった。

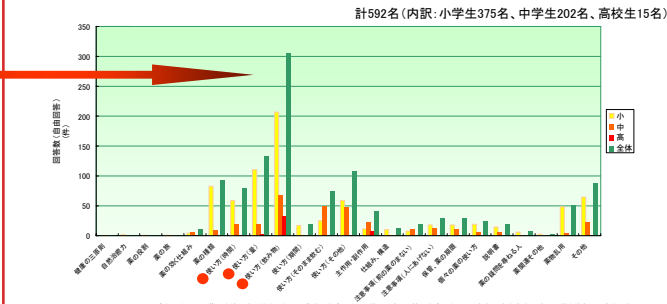
事前アンケート結果



事後アンケート結果



事後アンケート(自由回答/医薬品の使用にあたり参考になると思われた点)



考察

事前アンケートより、児童や生徒の身近には医薬品やサプリメントがあり、副作用などの情報も耳にしているが、一方で基本的な医薬品の知識を持たず、安易に使用する実態が判明した。しかし授業を行うことで、従来の間違った使い方を自覚して正しい使い方を身に付け、さらにそれらを家族や友人へと伝達するなど周囲への影響力も大きいと考えられる。小学生と中学生を比較すると、その理解度はむしろ小学生がより高く、平成24年度から義務教育となる中学3年生よりも早い、小学校の段階での教育が充分可能であり有効であることが示唆された。学校薬剤師が学校における医薬品の専門家として、率先して学校現場をサポートすることを期待するとともに、自らの健康状態や医薬品の使用に対する知識と判断力を培う今後の義務教育の成果に期待し、同時に小学生の段階から基礎的な知識を教えるなど一貫性のある教育を今後求めていきたい。